〔本草和名十九米穀〕鹽　山鹽出西羌、樹鹽陶景注、出胡中、熬鹽、虜鹽已上出崔禹、○中略和名、之保、

〔倭名類聚抄十六鹽梅〕白鹽　陶隱居本草注云、白鹽、余廉反、和名阿和之保、人常所食也、

黑鹽　崔禹錫食經云、石鹽一名白鹽、又有黑鹽、今按俗呼黑鹽爲堅鹽、日本紀私記云、堅鹽、木多師是也、

〔伊呂波字類抄志飲食〕堀作鹽、シホ亦　山鹽出西羌、樹鹽出胡中、陶景注、出、熬鹽　虜鹽已上出崔禹、

〔徒然草上〕くすしあつしげ、故法皇○花園の御前にさぶらひて、供御のまいりけるに、今まいり侍る供御の色々を、文字も功能も尋下されて、そらに申侍らば、本草に御覽じあはせられ侍れかし、ひとつも申あやまり侍らじと申ける時しも、六條故內府參り給ひて、有房ついでに物ならひ侍らんとて、先しほといふ文字は、いづれの偏にか侍らんとはれたりけるに、土偏に候と申たりければ、才のほどすでにあらはれにたり、今はさばかりにて候へ、ゆかしき所なしと申されけるに、とよみになりてまかりでにけり、

〔武備志二百三十一日本考〕譯語

飲食　鹽　シホ失河ヲ收河、

〔玉篇十五鹽〕戈占切、宿沙煮海爲鹽、　盧同上俗　塩同上　鹽公戶切、鹽也、又蒼猝也、姑也、不堅固也、

〔日本釋名下飲食〕鹽　海水にて製する物なれば、潮の訓をかり用ゆ、

〔倭訓栞前編十一志〕しほ　鹽をいふは、白穗の義なるべし、

〔日本書紀二十五孝德〕大化五年三月戊辰、蘇我臣日向、日向字身刺譖倉山田大臣於皇太子、○中略天智、庚午、山田大臣之妻子及隨身者自經死者衆、○中略是夕木臣麻呂、蘇我臣日向、穗積臣噛以軍圍寺、喚物部二田造鹽使斬大臣之頭、於是二田鹽仍拔大刀刺舉其宍、叱咤啼叫而始斬之、○中略皇太子妃蘇我造媛聞父大臣爲鹽所斬、傷心痛惋、惡聞鹽名、所以近侍於造媛者、忌稱鹽名、改曰堅鹽、

〔日本書紀十九欽明〕二年三月、納五妃、○中略蘇我大臣稻目宿禰女曰堅鹽媛、堅鹽此云岐拖志、